

六 大正十三年十二月
臨時国語調査会 仮名遣改定案

現今わが国に行われている国語および字音の仮名遣は、これを学ぶのに一方ならぬ苦心を要し、しかもあやまりなくつかいこなすことが、なかく困難である。わが国民は、すでに漢字に苦しんでいるのに、そのうえ、むずかしい仮名遣とゆる重荷を負うている。本会がさきに常用漢字を公にし、さらにまた仮名遣の整理をはかつて、この改定案を発表するのは、文字の使用を容易にして国民教育の発達と国家文運の進展を促そうとするためである。

凡 例

- 一、本案ハ大体東京語ノ発音ニヨリ、ナオ地方ニオケルモノヲモ考慮シテ整理シタノデアル。
- 二、本案ハ主トシテ現代文(口語、文語トモ)ニ適用スル。
- 三、固有名詞オヨビソノ他特殊ナ事情ノアルモノハ、シバラク従前ノ通トスル。タゞシナルベク本案ノ仮名遣ニヨル。
- 四、外国語ノ表記ハ別ニ定メル。

国語の表記に関する通則

第一条 国語の拗音を書くには や、ゆ、よ を右側下に細書する。

たゞし特別の場合にかぎり細書せずとも差支ない。

- | | |
|-----|--|
| 第二条 | 国語の促音を書くには つ を右側下に細書する。
たゞし特別の場合にかぎり細書せずとも差支ない。 |
| 第三条 | 国語の ア。列長音は ア。列の仮名に あ をつけて書く。 |
| 第四条 | 国語の イ。列長音は イ。列の仮名に い をつけて書く。 |
| 第五条 | 国語の ウ。列長音は ウ。列の仮名に う をつけて書く。 |
| 第六条 | 国語の エ。列長音は エ。列の仮名に い をつけて書く。 |
| 第七条 | 国語の オ。列長音は オ。列の仮名に う をつけて書く。 |
| 第八条 | 国語の ア。列拗音の長音は ア。列拗音の仮名に あ をつけて書く。 |
| 第九条 | 国語の ウ。列拗音の長音は ウ。列拗音の仮名に う をつけて書く。 |
| 第十条 | 国語の オ。列拗音の長音は オ。列拗音の仮名に う をつけて書く。 |
- 注意一 外国語の拗音促音の書き方には通則第一条第二条を適用する。

注意二 外国語の長音は通則第三条以下の場合の「あ」「い」

「う」のかわりに「ー」をつけて書く。

国語仮名遣改定案

第一 む、ゑ、をはい、え、おに改める。ただし助詞のをを除く。

例

一 むをいに改めるもの

いど(井戸) いのしよ(猪) くわい(慈姑)

まいる(参る) いる(居る)

二 ゑをえに改めるもの

こえ(声) つえ(杖) すえ(末)

うえる(植ゑる) すえる(据ゑる)

ただし、酔ふ(ゑふ) はように改める。

三 ををおに改める

おけ(桶) おか(岡) うお(魚)

おどる(踊る) おしえる(教へる)

しおれる(萎れる) おかしい(をかしい)

おしい(惜しい) あおい(青い)

第二 ぢ、づはじ、ずじに改める

例

一 ぢをじに改めるもの

くじら(鯨) ふじ(藤) わらじ(草鞋)

ねじる(捻ぢる) はじる(恥ぢる) よじる(攀ぢる)

二 づをずじに改めるもの

うずら(鶉) うず(渦) みず(水) ゆずる(譲る)

うずめる(埋める) さずける(授ける)

めずらしい(珍らしい) はずかしい(恥かしい)

しずかに(静かに) まず(先)

第三 わに発音されるははわに改める。ただし助詞のを除く。

例

かわら(瓦) かわ(河) にわ(庭) あらわす(著す)

まわる(廻る) こわれる(毀れる) あらわぬ(洗はぬ)

きらわぬ(嫌はぬ) さそわぬ(誘はぬ)

かわいらしい(かはいらしい) くわしい(委しい)

けわしい(険しい)

にわかに(俄かに) すなわち(則)

第四 いに発音されるひはいに改める。

例

うぐいす(鶯) たい(鯛) はい(灰)

ついやす(費す) たいらげる(平げる)

ならいます(習ひます) わらいます(笑ひます)

まいます(舞ひます)

ちいさい(小さい) こいしい(恋しい) ついに(遂に)

第五 おに発音されるふはおに改める。

例

あおい(葵)『

あおる(煽る) あおぐ(仰ぐ) たおす(倒す)

第六 うに発音されるふはうに改める。

例

あらう(洗ふ) まう(舞ふ) やとう(傭ふ)『

あやうい(危い)

第七 えに発音されるへはえに改める。ただし助詞のへを除く。

例

かえる(蛙) いえ(家) まえ(前) かえる(帰る)

さえずる(囀る)『 さそえ(誘へ) ひろえ(拾へ)』

さえ(助詞、さへ)

第八 おに発音されるほはおに改める。

例

いきおい(勢) かお(顔) しお(塩)『

なおす(直す) におう(匂ふ)『 なお(猶)

第九 ウ。列長音に発音されるくふ、すふ、ぬふ、ぶふ、ゆふるふの類のふはうに改める。

例

くう(食ふ) すう(吸ふ) ぬう(縫ふ)』

おぶう(負ふ) ゆう(結ふ) くるう(狂ふ)

ゆうだち(夕立)

たゞしユ。の長音に発音されるいふ(言) はゆうに改める。

第十 オ。列長音に発音されるおふ、そふ、のふ、もふ、よふ、ろふの類のふはうに改める。

例

うけおう(請負ふ) あらそ(争ふ)『

きのう(昨日) おもう(思ふ)』

まよう(迷ふ) ふくろう(梟)

第十一 オ。の長音に発音されるはう、オ。列長音に発音されるわう、あふ、おほはおうに改める。

例

一 はうをおうに改めるもの

あおう(逢はう) かおう(買はう) まおう(舞はう)』

こおう(強う) しおう(吝う)

二 わうをおうに改めるもの

よおう(弱う)

三 あふをおうに改めるもの

おうぎ(扇) おうち(棟)

四 おほをおうに改めるもの

おうかみ(狼) おうやけ(公)』

しおうせる(為遂せる)』

おうい(多い) おうきい(大きい)

第十二 オ。列長音に発音されるかう、こほはこうに、がうはごうに改める。

例

一 かうをこうに改めるもの

こうがい(筈) とうじ(麴) とうべ(神戸)』

さこう(咲かう) きこう(聞かう)』

こうばしい(かうばしい)』

あこう(赤う) ちこう(近う) こう(斯う)

二 こほをこうに改めるもの

こうり(氷) とうろぎ(蝨斯) ととこうる(滞る)

三 がうをこうに改めるもの

いそこう(急がう) なごう(長う)

第十三 オ。列長音に発音されるさうはそうに改める。

例

はなそう(話さう) かえそう(返さう)

ちらそう(散らさう)』

あそう(浅う) くそう(臭う) そう(然)

第十四 オ。列長音に発音されるたう、とほ、とをはこうに改める。

例

一 たうをとうに改めるもの

とうげ(峠) たとうがみ(畳紙) うとう(打たう)

かとう(勝たう) たとう(立たう)』

いとう(痛う) かとう(堅う) つめとう(冷たう)

二 とほをとうに改めるもの

とうる(通る) とうい(遠い)

三 とををとうに改めるもの

とう(十)

第十五 オ。列長音に発音されるなうはのうに改める。

例

しのう(死なう) あぶのう(あぶなう)

第十六 オ。列長音に発音されるはう、はふ、ほほはほうに、ばうはほうに、ぱうはほうに改める。

例

一 はうをほうに改めるもの

ほうき(箒) ほうむる(葬る)

二 はふをほうに改めるもの

ほうる(投る)

三 ほほをほうに改めるもの

ほうずき(酸漿) ほう(頬) ほうのき(朴木)

四 ばうをほうに改めるもの

あそぼう(遊ぼう) とぼう(飛ぼう)
はこぼう(運ぼう)

五 ぼうをぼうに改めるもの

すつぼう(すつぼう 酸)

第十七 オ。列長音に発音される まう、まふはもうに改める。

例

一 まうをもうに改めるもの

もうける(儲ける) もうす(申す)』

あゆもう(歩まう) やすもう(休まう)

たのもう(頼まう) あも(甘)う) せも(狭)まう)

二 まふをもうに改めるもの

すもう(角力)

第十八 オ。列長音に発音される やう、よほはように改める。

例

一 やうをように改めるもの

ようか(八日)』 はよう(早)う) ようやく(漸)く)

二 よほをように改めるもの

もようす(催す)

第十九 オ。列長音に発音される らうはろうに改める。

例

いのろう(祈らう) かえらう(帰らう)
とらう(通らう)』

くらう(暗)う) かるう(辛)う) あらう(粗)う)

第二十 ウ。列拗音の長音に発音される きうはきゅうに改める。

例

おうきゅう(大)きう)

第二十一 ウ。列拗音の長音に発音される しうはしゅうに改める。

例

しゅうと(舅) しゅうとめ(姑)』

あたらしゅう(新)しう) かなしゅう(悲)しう)』

すじしゅう(涼)しう)

第二十二 オ。列拗音の長音に発音される けふはきょうに改める。

例

きょう(今)日)

第二十三 オ。列拗音の長音に発音される せうはしゅうに改める。

例

まいりましゅう(参)りませう)

そうでしゅう(参)りませう)

りみびひにちじしきい ううううううううう	旧 仮 名 遣
りみびひにちじしき ううううううううう	発 音
りみびひにちじしき ううううううううう	新 仮 名 遣

れめべへねてぜせげけ ううううううううう	旧 仮 名 遣
りみびひにちじしきぎ ううううううううう	発 音
りみびひにちじしきぎ ううううううううう	新 仮 名 遣

字音の表記に関する通則

第一条 字音の拗音を書くには や、ゆ、よ を右側下に細書する。

第二条 たどし特別の場合にかぎり細書せずとも差支ない。字音の促音を書くには つ を右側下に細書する。

第三条 たどし特別の場合にかぎり細書せずとも差支ない。字音の ウ。列長音は ウ。列の仮名に り をつけて書く。

第四条 字音の オ。列長音は オ。列の仮名に り をつけて書く。

第五条 字音の ウ。列拗音の長音は ウ。列拗音の仮名に り をつけて書く。

第六条 字音の オ。列拗音の長音は オ。列拗音の仮名に り をつけて書く。

第七条 左の如き語は発音のまゝに書く。

- 銀杏 ぎんなん
- 天皇 てんのう
- 三位 さんみ
- 法被 はっぴ
- 十方 じっぽう
- 一辺 いっぺん

七宝 しっぽう
 北方 ほつぽう
 六本 ろつぽん
 学校 がっこう
 脚気 かっけ
 甲冑 かっちゆう
 法度 はつと
 雑貨 ざつか
 立派 りっぱ

字音仮名遣改定案

第一 ゐ、ゑ、をはい、え、おに改める。

例

一 ゐをいに改めるもの
 胃^イ 威^イ 位^イ 遺^イ 委^イ 尉^イ 域^イ 員^{イン} 院^{イン}
 韻^{イン} 水^{スイ} 炊^{スイ} 衰^{スイ} 推^{スイ} 对^{ツイ} 遺^{ユイ} 類^{ルイ}
 二 ゑをえに改めるもの
 苑^{エン} 援^{エン} 冤^{エン} 猿^{エン} 園^{エン} 円^{エン}
 三 ををにおに改めるもの
 汚^オ 悪^オ 鳴^オ 翁^{オウ} 屋^{オク} 温^{オン} 穩^{オン} 園^{オン}
 遠^{オン} 怨^{オン}
 二 ぐわ、ぐわはか、がに改める。

例

一 くわをかに改めるもの
 化^カ 貨^カ 果^カ 菓^カ 葉^カ 過^カ 科^カ 火^カ 課^カ
 会^{カイ} 悔^{カイ} 壞^{カイ} 回^{カイ} 怪^{カイ} 快^{カイ} 獲^{カク}
 拈^{カク} 活^{カク} 猾^{カク} 歡^{カン} 官^{カン} 還^{カン} 貫^{カン}
 二 ぐわをがに改めるもの
 臥^ガ 瓦^ガ 外^{ガイ} 月^{ガツ} 元^{ガン} 丸^{ガン} 願^{ガン}
 三 ぢ、づはじ、ずに改める。

例

一 ぢをじに改めるもの
 持^ジ 痔^ジ 軸^{ジク} 舳^{ジク} 陣^{ジン} 女^{ジョ} 除^{ジョ} 重^{ジュウ}
 住^{ジュウ} 頭^{シュウ}
 二 づをずに改めるもの
 豆^ズ 頭^ズ 途^ズ 凶^ズ
 第四 わに発音されるははわに改める。
 例
 琵琶の琵琶 枇杷の杷
 第五 ュの長音に発音されるいう、いふはゆうに改める。

例

一 いうをゆうに改めるもの
 尤^{ユウ} 又^{ユウ} 友^{ユウ} 幽^{ユウ} 郵^{ユウ} 誘^{ユウ} 由^{ユウ} 有^{ユウ}
 遊^{ユウ} 悠^{ユウ} 憂^{ユウ} 猶^{ユウ}

二 いふをゆうに改めるもの
邑コウ 揖コウ

第六 オ列長音に発音されるあう、わう、あふ、おふはおうに改める。

例

一 あうをおうに改めるもの

鶯オウ 桜オウ 鸚オウ 央オウ 奥オウ

二 わうをおうに改めるもの

往オウ 王オウ 旺オウ 皇オウ 凰オウ 黄オウ 横オウ

三 あふをおうに改めるもの

凹オウ 押オウ 鳴オウ

四 おふをおうに改めるもの

凹オウ

第七 オ列長音に発音されるかう、くわう、かふ、こふはこうに、がう、ぐわう、がふ、ごふはこうに改める。

例

一 かうをこうに改めるもの

好コウ 考コウ 向コウ 肴コウ 香コウ 講コウ 高コウ 慷コウ
航コウ 幸コウ 効コウ 江コウ 降コウ 校コウ 行コウ

二 くわうをこうに改めるもの

宏コウ 紘コウ 光コウ 広コウ 黄コウ 皇コウ 惶コウ
荒コウ

三 かふをこうに改めるもの
甲コウ 岬コウ 閤コウ

四 こふをこうに改めるもの

劫コウ

五 がうをこうに改めるもの

号ゴウ 郷ゴウ 強ゴウ 豪ゴウ 傲ゴウ

六 ぐわうをこうに改めるもの

轟ゴウ

七 がふをこうに改めるもの

合ゴウ

八 ごふをこうに改めるもの

劫ゴウ 業ゴウ

第八 オ列長音に発音されるさう、さふはそうに、ざう、ざふはぞうに改める。

例

一 さうをそうに改めるもの

掃ソウ 双ソウ 爪ソウ 早ソウ 相ソウ 曹ソウ 壮ソウ 操ソウ
騒ソウ 争ソウ 桑ソウ 喪ソウ 葬ソウ

二 さふをそうに改めるもの

挿ソウ

三 ざうをぞうに改めるもの

造ゾウ 藏ゾウ 象ゾウ 像ゾウ

四 ざふをぞうに改めるもの

例 雑ゾウザン

第九 オ列長音に発音される たう、たふはとうに、だう、だふはどうに改める。

例

一 たうをとうに改めるもの

刀トウ 島トウ 討トウ 盜トウ 打トウ 橙トウ 糖トウ 当トウ

湯トウ 桃トウ 陶トウ 稻トウ 禱トウ 悼トウ

二 たふをとうに改めるもの

答トウ 搭トウ 踏トウ 納トウ

三 だうをどうに改めるもの

道ドウ 堂ドウ 棠ドウ 萄ドウ

四 だふをどうに改めるもの。

例 納ドウ

第十 オ列長音に発音される なう、なふはのうに改める。

例

一 なうをのうに改めるもの

脳ノウ 惱ノウ 囊ノウ

二 なふをのうに改めるもの

例 納ノウ

第十一 オ列長音に発音される はう、はふ、ほふはほうに、

ほう、ほふ、ほふはほうに改める。

例

一 はうをほうに改めるもの

報ホウ 邦ホウ 宝ホウ 方ホウ 包ホウ 保ホウ 褒ホウ

たゞし蘇枋の枋は発音に従いほうをおうに改める。

二 はふ又はほふをほうに改めるもの

例 法ホフ

三 ばうをほうに改めるもの

暴ボウ 冒ボウ 坊ボウ 房ボウ 亡ボウ 望ボウ 膨ボウ

四 ばふ又はほふをほうに改めるもの

例 乏ボフ

第十二 オ列長音に発音される まう、はもうに改める。

例

毛モウ 孟モウ 亡モウ 妄モウ 盲モウ 望モウ 網モウ

第十三 オ列長音に発音される やう、えう、えふはよう

に改める。

例

一 やうをように改めるもの

羊ヨウ 洋ヨウ 様ヨウ 陽ヨウ 楊ヨウ

二 えうをように改めるもの

要ヨウ 曜ヨウ 遙ヨウ 譎ヨウ 夭ヨウ 幼ヨウ 杳ヨウ

三 えふをよりに改めるもの
葉エフ

第十四 オ列長音に発音されるらう、らふはろうに改める。

例

一 らうをろうに改めるもの
老ラウ 郎ラウ 廊ラウ

二 らふをろうに改めるもの
臙ラフ 臙ラフ 蠟ラフ

第十五 ウ列拗音の長音に発音されるきう、きふはきゆうに改める。

例

一 きうをきゆうに改めるもの
休キウ 丘キウ 廐キウ 臼キウ 糾キウ 久キウ 柩キウ 仇キウ

二 きふをきゆうに改めるもの
急キフ 及キフ 吸キフ 級キフ 泣キフ 給キフ

三 きうをきゆうに改めるもの
牛ギウ

第十六 ウ列拗音の長音に発音されるしう、しふはしゆうに改める。

例

一 しうをしゆうに改めるもの

修シウ 舟シウ 囚シウ 秀シウ 就シウ 収シウ 臭シウ 秋シウ
州シウ 酋シウ 袖シウ 聚シウ 周シウ

二 しふをしゆうに改めるもの
拾シフ 執シフ 集シフ 襲シフ 洩シフ 習シフ 輯シフ

三 じうをじゆうに改めるもの
柔ジウ 獸ジウ

四 じふをじゆうに改めるもの
十ジフ 什ジフ 汁ジフ 拾ジフ

第十七 ウ列拗音の長音に発音されるちう、はちゆうに改める。

例

第十八 ウ列拗音の長音に発音されるにう、にふはにゆうに改める。
昼チウ 丑チウ 宙チウ 抽チウ 膏チウ 肘チウ 鑄チウ

例

一 にうをにゆうに改めるもの
柔ニウ

二 にふをにゆうに改めるもの
入ニフ

第十九 ウ列拗音の長音に発音されるびう、はびゆうに改める。

謬 ビエウ
ビビウ

例

第二十 ウ列拗音の長音に発音される りう、りふは りゆう
に改める。

例

一 りうをりゆうに改めるもの

留 リエウ 柳 リエウ 流 リエウ

二 りふをりゆうに改めるもの

立 リエウ 粒 リエウ 笠 リエウ

第二十一 オ列拗音の長音に発音される きやう、けう、けふ
は きやうに、きやう、げう、げふは きやうに改める。

例

一 きやうをきやうに改めるもの

杏 キヨウ 驚 キヨウ 狂 キヨウ 兄 キヨウ 競 キヨウ 鏡 キヨウ 強 キヨウ
杏 キヤウ 驚 キヤウ 狂 キヤウ 兄 キヤウ 競 キヤウ 鏡 キヤウ 強 キヤウ

二 けうをきやうに改めるもの

校 キョウ 教 キョウ 喬 キョウ 橋 キョウ

三 けふをきやうに改めるもの

脅 キョウ 協 キョウ 夾 キョウ 俠 キョウ

四 ぎやうをぎやうに改めるもの

仰 ギョウ 行 ギョウ 形 ギョウ 刑 ギョウ

五 げうをぎやうに改めるもの

堯 ギョウ 曉 ギョウ

六 げふをぎやうに改めるもの

業 ギョウ

第二十二 オ列拗音の長音に発音される しゃう、せう、せふ
は しゃうに、じゃう、ぢやう、ぜう、でう、でふは じやう
に改める。

例

一 しゃうをしゃうに改めるもの

相 シヨウ 正 シヨウ 商 シヨウ 詳 シヨウ 傷 シヨウ 省 シヨウ 生 シヨウ
相 シヤウ 正 シヤウ 商 シヤウ 詳 シヤウ 傷 シヤウ 省 シヤウ 生 シヤウ

二 せうをしゃうに改めるもの

唱 シヨウ 将 シヨウ 尚 シヨウ 聖 シヨウ 性 シヨウ 章 シヨウ 掌 シヨウ
唱 シヤウ 将 シヤウ 尚 シヤウ 聖 シヤウ 性 シヤウ 章 シヤウ 掌 シヤウ

三 せふをしゃうに改めるもの

妾 シヨウ 捷 シヨウ 涉 シヨウ 少 シヨウ 招 シヨウ 燒 シヨウ 消 シヨウ 詔 シヨウ 小 シヨウ 礁 シヨウ 照 シヨウ
妾 シヤウ 捷 シヤウ 涉 シヤウ 少 シヤウ 招 シヤウ 燒 シヤウ 消 シヤウ 詔 シヤウ 小 シヤウ 礁 シヤウ 照 シヤウ

四 じやうをじやうに改めるもの

上 ジヨウ 情 ジヨウ 淨 ジヨウ 状 ジヨウ 讓 ジヨウ 成 ジヨウ 城 ジヨウ
上 ジヤウ 情 ジヤウ 淨 ジヤウ 状 ジヤウ 讓 ジヤウ 成 ジヤウ 城 ジヤウ

五 ぢやうをじやうに改めるもの

場 ジヨウ 娘 ジヨウ 釀 ジヨウ 丈 ジヨウ 杖 ジヨウ 定 ジヨウ 錠 ジヨウ
場 ジヤウ 娘 ジヤウ 釀 ジヤウ 丈 ジヤウ 杖 ジヤウ 定 ジヤウ 錠 ジヤウ

六 ぜうをじょうに改めるもの

擾ジヨウ 饒ジヨウ

七 でうをじょうに改めるもの

条ジヨウ 嫻ジヨウ

八 でふをじょうに改めるもの

帖ジヨウ 豊ジヨウ

第二十三 オ列拗音の長音に発音される ちやう、てう、てふ は ちよう に改める。

例

一 ちやうをちように改めるもの

停チヨウ 提チヨウ 丁チヨウ 町チヨウ 挺チヨウ 長チヨウ 腸チヨウ

聴チヨウ

二 てうをちように改めるもの

吊チヨウ 鳥チヨウ 朝チヨウ 兆チヨウ 超チヨウ 調チヨウ 彫チヨウ

三 てふをちように改めるもの

帖チヨウ 蝶チヨウ 牒チヨウ

第二十四 オ列拗音の長音に発音される ねう は によう に

改める。

例

尿ニヨウ 饒ニヨウ 遶ニヨウ

第二十五 オ列拗音の長音に発音される ひやう、へう は ひよう に、びやう、べう は びよう に改める。

例

一 ひやうをひように改めるもの

兵ヒヨウ 平ヒヨウ 評ヒヨウ

二 へうをひように改めるもの

雹ヒヨウ 表ヒヨウ 俵ヒヨウ 票ヒヨウ 豹ヒヨウ

三 びやうをびように改めるもの

屏ビヨウ 病ビヨウ 鋌ビヨウ

四 べうをびように改めるもの

苗ビヨウ 描ビヨウ 猫ビヨウ 眇ビヨウ 廟ビヨウ

第二十六 オ列拗音の長音に発音される みやう、めう は みよう に改める。

例

一 みやうをみように改めるもの

明ミヨウ 命ミヨウ 冥ミヨウ 名ミヨウ 茗ミヨウ

二 めうをみように改めるもの

妙ミヨウ 苗ミヨウ 猫ミヨウ

第二十七 オ列拗音の長音に発音される りやう、れう、れふ

は りよう に改める。

例

- 一 りやうをりように改めるもの
 良^{リヨウ} 両^{リヨウ} 亮^{リヨウ} 令^{リヨウ} 領^{リヨウ} 涼^{リヨウ} 諒^{リヨウ}
 量^{リヨウ} 梁^{リヨウ}
- 二 れうをりように改めるもの
 聊^{リョウ} 料^{リョウ} 了^{リョウ} 僚^{リョウ} 寮^{リョウ} 寥^{リョウ}
- 三 れふをりように改めるもの
 狝^{リョフ} 蠶^{リョフ}

新旧仮名遣対照表

一

はづぢぐくをゑゐ わわ	旧 仮 名 遣	発 音	新 仮 名 遣
わづじがかおえい			
わづじがかおえい			

二

旧 仮 名 遣	い う
発 音	い ふ
新 仮 名 遣	い ふ
	ゆう

三

旧 仮 名 遣	あう ほう わう かう がう さう ざう たう だう なう ほう ぼう まう やう らう	くわう ぐわう かふ がふ さふ ざふ たふ だふ なふ ほう ぼふ えう	あふ おふ
発 音	あう ほう わう かう がう さう ざう たう だう なう ほう ぼう まう やう らう		
新 仮 名 遣	あう ほう わう かう がう さう ざう たう だう なう ほう ぼう まう やう らう		

四

きゅう きふ	きゅう きふ	きゅう きふ	きゅう きふ
ぎゅう しゅう	ぎゅう しゅう	ぎゅう しゅう	ぎゅう しゅう
じゅう ぢゅう	じゅう ぢゅう	じゅう ぢゅう	じゅう ぢゅう
ちゅう にゅう	ちゅう にゅう	ちゅう にゅう	ちゅう にゅう
びゅう りゅう	びゅう りゅう	びゅう りゅう	びゅう りゅう

五

きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう
けう げう せう ぜう てう めう れう	けう げう せう ぜう てう めう れう	けう げう せう ぜう てう めう れう	けう げう せう ぜう てう めう れう
きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう
きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう	きゅう ぎゅう しゅう ぢゅう ちゅう びゅう りゅう

〔参考〕 仮名遣改定案について

臨時国語調査会 安藤 正次

一 改定の主旨

昨大正十三年十二月二十四日文部省で開かれた臨時国語調査会は、満場一致、仮名遣改定案を可決した。

仮名遣の改定は国語仮名遣字音仮名遣の両者にわたつてい
るが、その改定の主旨は、臨時国語調査会の発表した仮名遣
改定案のはじめにある左記の文で明らかである。

〔仮名遣改定案〕前文の本文を省略

右にも述べてある如く、国語および字音の仮名遣をあやま
りなくつかいこなすとゆうことは、よほどむずかしいので
あって、教育者も被教育者もこの点についてはつねに多大の
苦痛を体験して来ているのである。しかも従来の仮名遣は、
その標準が或過去の時代の言葉の書きあらわし方におかれて
おり、その過去の時代の言葉の書きあらわし方は、それらの
時代の発音を基礎としていたのであるから、発音の習慣の
変つて来ている後世の人々が、昔と同じように言葉を書きあ
らわそうとしたところで、それは相当な苦心を重ね練習を積
んだ上でなければ不可能である。器械的に昔の人々の書きあ
らわし方を覚えこみ、いわゆる仮名遣の規則を暗記している
のでなければ、その目的を達することが出来ない。文字を知
り仮名を知つていても、仮名遣の規則に縛られて言葉を書き
あらわすに不便を感じ、しかも、その規則を覚えこむには多